

# クッシング症候群

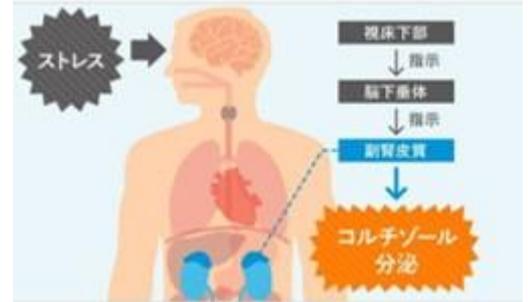
## ポイント

- ◎本性は、二次性高血圧の原因の一つで、年間約 100 症例と少ないながら、放置すると、他の病気を引き起こすことがあるので、注意が必要です。
- ◎人間ドック等の画像検査で腫瘍が発見され、診断に至るケースがあります。

## <クッシング症候群とは>

副腎から分泌されるコルチゾールというホルモンが過剰になることにより、さまざまな症状が現れる病気です。

原因は、下垂体腫瘍、副腎腫瘍、コルチゾールと同じ作用を持つ薬剤の過剰投与などがあります。



◎ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）：脳下垂体から分泌されるホルモンで、副腎皮質に作用し、コルチゾールの分泌を促します。

◎コルチゾール：副腎皮質から分泌される、生命維持に欠かせないホルモンです。分泌は早朝が最も多く、夜中が最も少ないです。ストレスを感じると、身を守ろうと急激に増えることから、ストレスホルモンともよばれています。

## <症状>

満月様顔貌、首・肩の皮下脂肪増加、腹部肥満、**皮膚が薄くなる、皮下出血**、手足が細くなる、体毛増加、うつ、生理不順、高血圧、血糖値上昇、脂質異常、骨粗しょう症、免疫力低下など

## <検査>

◎ACTH、コルチゾール測定（正確な評価をするために、採血は午前中早い時間に、空腹安静の状態で行います）

より詳しい検査として、デキサメタゾン抑制試験を行うことがあります（前夜薬を飲んで来院、同様に採血を行います）

◎腫瘍の有無を確認するための画像検査

## <治療>

病態にあわせて、「手術療法」、「放射線療法」、「薬物療法」から最適な治療方法を選択します。

★**皮膚が薄くなったり、皮下出血が目立つ場合には、医師に伝えてください。**

※一般社団法人 日本内分泌学会 HP 参照

※国立研究開発法人 国立国際医療研究センターHP 参照

